

健康 よもやま 話



清水 明

ある日突然、なんの前ぶれもなく関節痛や腫れを生ずる「偽痛風」という病気をご存じでしょうか？痛風のような急性の関節炎を起こすため、このような名前がついていますが、異なる疾患です。

原因は痛風が尿酸結晶であるのに対し、ピロリン酸カルシウム結晶が関節に沈着することにより起こります。この結晶がなぜ関節内に沈着するのかはよく分かっていませんが、高齢女性に多く発症する傾向があります。罹患する関節は、膝関節が最も多く、肩、手、足、股関節など痛風にくらべ大きな関節に起こります。第1、2頸椎^{けいつい}に発症する場合、クラウン・デンス症候群と呼ばれ、頸を動かさないくらいの強い痛みを生じることがあります。また関節リウマチなどとは違い多く

高齢女性に多い

「偽痛風」

は一つの関節に起こります。

症状は急な関節痛や腫れ、熱感で時に全身の発熱を伴うこともあり、細菌感染による関節炎と鑑別が必要になることがあります。

検査ではX線撮影において関節内の石灰沈着が見られます。また関節液を採取しピロリン酸カルシウム結晶を同定することで確定されます。

治療では消炎鎮痛剤やステロイドなどの内服薬や、関節内ステロイド注射を行い、多くの場合は1週間程度で軽快しますが、関節炎が再発するものや症状が長引くこともあります。気になる関節症状があれば、医療機関に受診しましょう。

（北國ドクターズクラブ会員・いしぐるクリニック院長）

